

階層分析法（AHP：Analytic Hierarchy Process）を用いた キャンプ実習前後における感情の変化の定量的解析

○大橋信行〔東京経営短期大学〕、佐久間康〔東京経営短期大学〕、
田代浩二〔NPO 法人体験学習研究会〕
キーワード：キャンプ実習 評価法 AHP

【目的】 キャンプ実習に参加した学生を対象に、実習の前後におけるキャンプに対する気持ちの変化を階層分析法（AHP: Analytic Hierarchy Process）を用いて解析した。【対象と方法】 対象は、T短期大学の夏季集中授業（キャンプ実習）に参加した2年生7名（男性：4名（19.0±0.0歳）、女性：3名（19.3±9.7歳））であった。質問紙への回答は、実習前と実習終了後ともにキャンプ場にておこなった。【結果および考察】 実習前には「実習参加の目的」を、実習終了時には「キャンプで大切なこと」を「人間関係の向上」、「授業単位の取得」、「自然とのふれあい」、「生活習慣の改め」の中から一対比較で選択させた。その結果、実習前は「授業単位の取得」43.0%、「自然とのふれあい」28.5%、「人間関係の向上」19.4%、「生活習慣の改め」9.1%であったが、実習終了後は「人間関係の向上」41.7%、「自然とのふれあい」30.2%、「生活習慣の改め」15.9%、「授業単位の取得」12.2%となった。実習参加前には、単位取得という短絡的な目的が主であった学生達が、実習を通じて、キャンプに求められるコミュニケーション力や自然との触れ合いといった目的を理解したため、気持ちが変わったものと考えられた。

ライフスキル獲得を目指した授業実践 —創作レクリエーション・ダンスを通しての変化—

○高山 昌子〔太成学院大学〕
キーワード：ライフスキル 構成的グループエンカウンター 仲間づくり

本研究は、大学新生が体育実技授業においてコミュニケーションスキル、社会的スキル、適応感の向上を検討することであった。200X年に入学した新生で、春学期（4月～8月）に開講された体育実技授業（レクリエーション実技）15回を受講した学生を調査対象者とした。授業初回時（4月）と最終授業時（8月）に質問紙調査を実施した。授業参加者には、構成的グループエンカウンターの手法を用いた授業展開を実施し、後半は小グループによる創作レクリエーション・ダンスを展開した。また、毎時間、各グループによる振り返りを実施し、記録をつけさせた。新生の大学生活への適応や、コミュニケーション、社会的スキルについて、内省報告より検討した。